

人と人とのつながりを大切に

巻・頭・言

平成29年度特許庁技術懇話会 代表幹事 小池 秀介

平成29年度の特技懇代表幹事を務めております小池秀介と申します。

この度、巻頭にてご挨拶をさせていただくにあたり、私が日頃、特技懇の活動を通じて気付いたことや考えたことなどについて、雑多ではありますが、私なりの思いを紹介させていただきたいと思えます。

過去を思い返しますと、私が代表幹事に着任する以前は、「特技懇は会誌『特技懇』を作っているグループ」という認識でありまして、特技懇の活動内容を深く知ろうとしたこともなく、まして活動の趣旨など真剣に考えたこともありませんでした。

しかし、代表幹事に就任して以来、特技懇の様々な活動に取り組み、課題と向き合うことで、この組織の役割や今後の課題について日々考えさせられています。特に、特許庁を退職されたOB・OGの皆様からは、大変貴重なご意見をいただきまして、庁内ではなかなか得られない新しい視点にいつも気付かされています。

例えば、ある特許庁OBの方からは、「特許庁を退職すると、勤務先も連絡先も分からなくなってしまうから、OB・OGとコンタクトを取るのが難しくなるんだ。仕事というのは人と人とのつながりがとても重要だから、特技懇のネットワークにはいつも感謝しているよ。昔の同僚にまた会いたいし、今年の特技懇懇親会にも必ず参加するね！」と励ましのお言葉をいただきました。

確かに、特許庁の庁舎内にいると、所属やメールアドレス、内線番号は、すぐに分かりますし、同じ庁舎内であれば会いにも行けます。しかし、一度退職してしまうと、勤務先や連絡先を探すのも一苦労ですし、相手先の職場まで会いに行くのもなかなかハードルがあります。

このような特許庁の外側から特技懇の役割を考えると、この視点は、私にとって新しい視点でありましたし、また、本質を突く視点であるとも感じました。特技懇の代表幹事を半年間務めた現在では、特技懇は、単なる「会誌『特

技懇』を作っているグループ」ではなく、「人と人とのつながりを作っているグループ」であると思うに至っています。

このような視点から、特技懇の活動を再び見渡してみますと、会誌「特技懇」も、特技懇懇親会も、特技懇会員サイトも、何のためにあるのか、これから何をしていくべきかが見えてくるように思います。今回は、紙面の都合もありますので、これらの活動の中でも、特に「特技懇会員サイト」をピックアップしまして、その概要とともに、現在、特技懇事務局が企画していることを簡単にご紹介したいと思います。

すでにご存知の方もおられるかと思いますが、「特技懇会員サイト」は、昨年度から本格的に運用を開始した会員専用サイトです。当サイトの会員検索機能を使えば、いつでもどこでも、正会員（現役職員）と特別会員（OB・OG）の最新プロフィール情報を検索して閲覧することができます。（もしコンタクトしたい相手の連絡先がプロフィール欄に表示されていなくても、会員同士の連絡機能を使ってサイト内でメッセージのやり取りもできます。）「特技懇会員サイト」には、このような便利な機能がありますので、会員の皆様の「人と人とのつながり」を作るにあたってぜひご活用いただければと思います。

ただ、残念なことに、「特技懇会員サイト」の機能は会員の皆様あまり知られておらず、十分に普及しているとは言えない状況です。そこで、現在、特技懇事務局では、当サイトをより簡便に使っていただくために、「特技懇会員サイト」の利用ガイド（簡単マニュアル）を作成しておりまして、今年度内には皆様のお手元に届くよう準備を進めているところです。

特技懇は、これからも「人と人とのつながり」を大切に考えながら、邁進してまいりますので、今後ともぜひ特技懇の活動にご参加くださいますようお願い申し上げます。

会員の皆様のさらなる「つながり」を祈念いたしまして巻頭言とさせていただきます。